

2017年10月号

## 保育園連盟と保育士会と共同し、京都市への保育予算要望を実施

～京都市との「平成30年度京都市保育予算に対する要望懇談会」～

8月30日16時からひとまち交流館にて、「平成30年度京都市保育予算に対する要望懇談会」が開催されました。京都市保育園連盟（民間保育園で組織する団体）と京都市保育士会（保育士で組織する団体）、市保連の三者共同で京都市に対して「京都市保育予算に対する要望書」を提出し、懇談を行いました。

京都市からは、京都市若者はぐくみ局長の久保敦氏、幼保総合支援室長荒木修生氏、民営保育施設課長小林中氏をはじめ多数の保育行政の幹部の方々の出席がありました。

懇談では、京都市保育園連盟の藤田尚哉理事長から要望書全体の説明があり、京都市保育士会の北川洋子会長からの発言が続きました。保育士会からは、「保育制度調査委員会アンケート」の紹介や今年度より新設された「処遇改善加算2」に関する意見（研修強化に対する人的保障が無いことなど）、他職種との連携強化や看護師の配置、生活保護・一人親家庭が増加している中での子育て支援の役割強化、長時間開園に伴う朝夕の体制の補強などの要望が出されました。

市保連からは、中村会長・柳生事務局長が、保育料以外の負担の問題や潜在的待機児童対策としての「保育園」の新設を要望しました。特に、処遇改善では、ベテラン保育士が保育園で果たす役割を保育の質や安全性の観点から説明し、定年まで安心して就労できるための処遇改善が必要だと強調しました。

私たちの要請の対し、京都市からは、「（プール制について）国に基準に合わせると14億円の予算の削減となるが、削減せず努力を行ってきた」、

「更なる充実は困難ではあるが、国の動向を見ながら努力していく」（以上、幼保総合支援室幼保企画課長長谷川秀司氏）、「ベテランの重要性については、年代のバランスが重要だと認識している。国のキャリアアップの仕組みを通じて質の向上に努めたい」「いつでもどこでも必要な保育が受けられるように市のスタンス」（以上、幼保総合支援室長荒木修生氏）などの返答があり、懇談を終了しました。

市保連が、保育園連盟と保育士会と共同して京都市の局長級と懇談できる理由は、市保連に市内の多数の保護者会が加盟しており、保護者団体として公的に認知されているからです。加盟園が増えれば、よりいっそう京都市の保育行政に対する発言力を高めることが可能になり、保育環境の改善に繋がります。引き続き京都市の保育行政への要望を市保連へお寄せ下さい。

9月から「予算要望署名」も始まっています。皆様のご協力をよろしくお願いします。  
（事務局長 柳生剛志【朱い実保育園保護者】）



（写真）要望書を渡す保育園連盟藤田尚哉理事長

秋の署名運動が始まります！

目標は、当面5万筆！

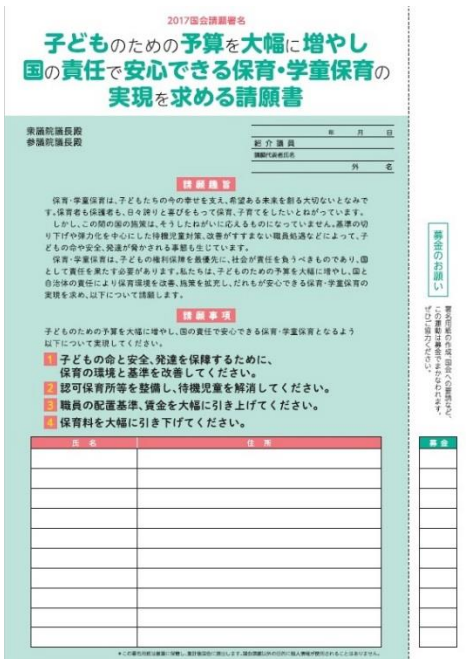
1次締め切りは10月31日、

2次締切は12月22日、最終締切1月末です。

国と京都市宛の2種類あります。



(国宛の署名)



京都市の保育・学童保育制度の充実を求める請願署名

京都市会議長 寺田 一博様

【請願概要】  
2015年度より子ども・子育て支援新制度に基づいて京都市の保育並びに学童保育制度がスタートしました。私たちは、真に「子どもの最高の利益」が保障される保育・学童保育制度の充実・発展を願っていますが、京都市が推進しようとしている保育・学童保育制度は懸念を覚える問題点が多々あります。そこで、以下の点に関して改善・充実していただきたいと請願いたします。

- 【請願項目】
1. きょうだいが同じ保育園に入れるよう、また年度途中で保育園に入れるように、保育園の整備をより一層進めてください。
  2. 地域型保育事業は、保育士100%配設の小規模保育事業A型を中心に整備してください。また遊働施設（保育内容の支援・代替保育・3歳からの保育）の設営を京都市の責務で推進してください。
  3. 小学生の放課後の生活保障としては学童保育の整備を中心に進めてください。又、学童保育・児童館職員の高齢をより一層改善してください。
  4. 保護者の家計を圧迫している保育・学童保育所保育料の軽減を交渉してください。
  5. 京都市営保育所の民間移行方針は見直ししてください。
  6. 民間保育園・地域型保育事業に働く職員の労働条件の改善を図ってください。

名前	住所

ほんまもん 日本一の保育・学童保育がいのちあ！京都市実行委員会  
<連絡先> 京都市上京区猪熊通丸太町下る中之町 519 京都市福祉会本部 京都保育園協議会  
TEL:075-801-8810 FAX:075-198-8000  
※この書面は議案提出用紙と併せて提出して下さい。記入漏れが原因に利用されないこととなります。

(京都市宛の署名)

署名スタート集会開催！

9月21日に、こどもみらい館にて、「2017年度秋の保育運動国向け署名スタート集会」が開催されました。保育者・保護者をはじめ34人が参加し、リリーススピーチでは市保連の好川副会長が発言しました。

前段の京都華頂大学の藤井伸生教授によるミニ学習会では、日本の保育園の職員配置基準・面積基準が先進国と比較して大きく遅れていることや国が待機児童対策を「保育所」増設以外のやり方で乗りきろうとしていること、全産業の賃金と比較しても著しく低い保育労働者の賃金水準など、保育を巡る様々な問題提起がありました。そして、長年にわたって署名をはじめ様々な保育改善に向けた運動で、職員配置基準の改善や処遇改善などを実現してきたことが強調されました。

学習会の後は、保育労働者や園長、保護者などからリレースピーチがあり、最後に京都保育園体連絡会の井手事務局長より行動提起が行われました。



(写真) リレースピーチで訴える好川副会長

## 「青いとり保育園」裁判の署名 ご協力ありがとうございます。

皆様にご協力いただきました青いとり裁判の署名を9月15日に大阪高裁に提出しました。僅かな期間でしたが、全体で1万1680筆も集まりました(うち市保連関係は、約1300筆)。保護者会の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。また、同日大阪高裁で第1回公判がありました。署名は今後も集めていきますので、引き続きご協力いただければ幸いです。



(写真) 9/15 裁判報告集会の様子

## 市保連 新役員紹介

### 新副会長 西山頌秀(朱一保育園)

初めまして、新しく市保連の副会長になった西山と言います。中京区にある朱一保育園で今年度の保護者会長をしています。これからどうぞよろしくお願いいたします。

私には、もう一つの顔があります。朱一保育園の保護者の有志の方と一緒に、一昨年に「中京区に保育園・学童保育をつくる会」というものを立ち上げ、その代表をしております。市内でも、人口に対する保育園の少なさから、待機児童の集中する中京区東部地域。四条大宮にある朱一保育園は、中京区のちょうど真ん中ということもあり、東部地域からも多くの方が通っておられます。「きょうだいと同じ保育園に入れなかった」という声、また定員をはるかにこえて200人以上を受け入れるために「在園児の事故が心配」といった声などを聴いています。そのため、朱一保育園の分園建設に取り組んでいます。

また、保育園のある朱一学区には学童保育がなく、子どもたちは隣接する学童に通っています。「卒園してもこんな問題がある」ということで、学童保育もつくりたいと取り組んでいます。

市保連は、こういう取り組みにとって、大事な役割を果たしていると思います。京都市は、一保育園の問題には取り合ってくれません。待機児童問題という背景のもとで、保護者で何度も要請して、はじめて「市民の問題」と認められるようになります。しかし、市保連を通じて声をあげれば、「京都市の保護者の声」として、わかりやすく京都市に伝わります。市保連を利用させてもらう分、この市保連の役割を微力ですが果たしていきたいと考えています。

# 保育園数珠つなぎ

## 朱一保育園

中京区の中心部、四条大宮の西にあるUR 壬生坊城団地。この団地の中に園庭をもち、団地1階部分を園舎にしているのが、朱一保育園（しゅいちほいくえん、定員190人、社会福祉法人たんぽぽ福祉会）です。



（写真）園舎の様子

1976年、団塊ジュニアが生まれ保育園の必要性が高まった時代、公団住宅の建設ともなって地域の保護者が声をあげ、自らつくられました。当初は、公設民営の「朱一保育所」でしたが、京都市が公設保育所の民営化をすすめたもとので2007年、法人が市から園舎を買い取り、民設民営の保育園へと生まれ変わりました。一貫して、保育園と労働組合、保護者が共同して、「こどものひとりひとりの人格を尊重する」「民主的な運営を行う」ことを理念として掲げられてきました。

去年は、40周年の年でした。「OB会たんぽぽわたぼうし会」と「中京区に保育園・学童保育をつくる会」の2つの会が発足され、保護者の取り組みが現在でも活発にされています。

保護者のみなさんは190人という定員数を見て驚かれます。そして入園して二度目の驚きがあります。定員をこえる200人以上が在園しているのです。昨年、公団内にあいたテナントを借りて、新たに「どんぐりのおうち」を開設。10人定員を増やしました。それでもこどものびのびと育つには狭すぎると、団地の通りをはさんだ西側にある土地を購入して、来年度に分園を開設します。これで定員200人になり、ようやく実際通りの数字になると喜んでいます。

保護者会の行事は、7月に夏祭り、11月にバザー、12月に保護者会主催の学習会を毎年取り組んでいます。これに加え、昨年からは「中京区に保育園・学童保育をつくる会」主催で「夕涼み会」が9月に行われています。



こどもが多い分、保護者も多いし、先生も多い。なかなか全体を見通すことはできません。保護者会活動は多くの保護者で分担して行っています。その分、みなさんで動くと大きな力になります。これからも、こどもたちのためにがんばっていきます。

保護者会会長 西山頌秀